

## 「高校野球特別規則（2017 年版）」改正の要点解説

日本高等学校野球連盟  
審判規則委員会

- (1) 2015 年の「Official Baseball Rules」の改正を受けて昨年「公認野球規則」の規則条文構成に大幅な変更があったことに伴い、「高校野球特別規則」も各項目の該当関連条文番号の順序通りに並び替えた。

※ 昨年までと項目番号が異なっているものがありますのでご注意ください。

- (2) 6. 項の「試合開始前の負傷による選手変更の特例」〈下線部追加〉

オーダー用紙交換の後、試合開始前の両チーム整列までの間に、オーダー用紙に記載された先発出場選手が突発事故により止むを得ず出場が不能となった場合、控え選手を交代出場させることができる。その場合は、出場不能となった選手の打順、守備位置で試合を開始する。また、出場不能となった交代選手は試合に出場しなかったことになり、回復すれば以後の試合に出場することができる。

※ 控え選手は出場不能となった選手の打順、守備位置で試合を開始することを明文化した。

- (3) 旧 24. 項の「投手のボークペナルティの死球の取り扱い」〈全文削除(取扱い変更)〉

規則書では塁上の全走者がフォースの状態のとき(走者一塁、一・二塁、満塁)ボークの投球が死球(Hit by Pitch)となった場合、死球が適用され打者も走者も一つ先の塁に進むこととなりボークは無かったこととなる。この場合高校野球では体の当たり所によっては打者走者に代えて臨時代走を適用することも可能で問題は無いが、それ以外るとき(走者二塁、三塁、二・三塁、一・三塁)死球は適用されず、ボークが適用され打者は打ち直しとなります。

高校野球では、「頭部(首から上)に当たった場合は臨時代走」という取り決めがあり、頭部への死球を取消して同じ打者に打ち直しをさせることは常識的ではないという判断でこの特別規則を 2015 年に採用しました。また、試合を決する場合(三塁に走者がいる時)は死球を適用しないでボークを適用するという先攻・後攻チームでルールに違いが発生し、野球本来の同条件でプレイするための取り決めから逸脱したルールになっていました。

このことに対して各方面から問題提起があり、技術・振興委員会や連盟役員、指導者も含め検討、議論を重ねた結果、公認野球規則通りとしこの項を削除することとした。

※ これに伴い 11. 項の「臨時代走者」の末尾に【例外】を追記した

【例外】走者二塁、三塁、二・三塁、一・三塁の場合において、ボーク宣告後の投球が打者の体に触れたとき(体の部位を問わない)は、ボークが宣告され、打者は打撃を継続する。

- (4) 25. 項に「サスペンデッドゲームの取り扱い」を追加 〈全文追加〉

平成 27 年度にタイブレーク制度の採用により一度削除した「サスペンデッドゲームは、高校野球では適用しない」を再掲示。

※ 削除したことにより、サスペンデッドゲーム適用可という解釈が一部で生じたため。

以上